

東京国立博物館 ニュース

2017 **2-3**

展示と催し物案内
第741号

2-3 ✿「博物館でお花見を」／4-5 ✿特別展「茶の湯」／5 ✿特別展「春日大社 千年の至宝」
6-11 ✿総合文化展／11 ✿保存と修理情報⑨／12-13 ✿みどりのライオン 教育普及事業
13 ✿トーハクくんのなるほトーハク／14-15 ✿イベント&インフォメーション
16 ✿2017年2月・3月の展示・催し物



トーハクに春一番
「博物館でお花見を」



博物館でお花見を

桜にちなんだ名品を展示し、さまざまなイベントも開催する春の恒例企画です。10種類以上の桜が咲く庭園では、ライトアップも実施します。トーハクならではの「お花見」をお楽しみください。

／ロマンスティックな桜



本館7室 (部分)

源氏物語図屏風(若菜上)

伝土佐光則筆 江戸時代・17世紀 個人蔵
展示は3月22日(水)～

猫が開けた御簾の隙間から、柏木が女三宮を目撃。満開の桜が恋の始まりを祝福しています。

3月20日(月・祝)・27日(月)、4月3日(月)は開館するほ



トーハクくん
東京国立博物館 公式キャラクター

は桜の名所です!

一つにした名品が咲き誇っています。を見つけてください!



本館10室

山海愛度図会・花をごらんあそばしたい

歌川国芳筆 江戸時代・嘉永5年(1852)
展示は3月22日(水)～

さまざまな花の意匠で身を飾った、彼女自身が花のよう。髪飾りは金色の桜でしょうか?

花のような美人に釘づけ



本館13室

流水に桜透鐔

西垣勤平作 江戸時代・17世紀
野原秀子氏寄贈

流水に桜の巧みな透彫。鉄製で、優美ながらダンディな鐔の世界が広がります。

／ダンディな桜

／春と秋を一緒に?

3月14日(火)

4月9日(日)

◆桜ワークショップ「友禅染に挑戦」 事前申込制

布に模様を染める技法のひとつ、友禅染を体験できます。

日時: 3月26日(日)

① 10:00～12:00 ② 14:00～16:00

対象: ①小学4年生～中学3年生とその保護者(2人1組)
②高校生以上

*事前申込制、応募者多数の場合は抽選。
詳細は本誌12ページ参照

◆ボランティアによるアートスタジオ「桜の根付作り」 事前申込制

展示室で根付の展示を見学した後、桜をテーマにオリジナルの根付を制作します。

日時: 3月25日(土) 13:30～15:30

対象: 高校生以上

*事前申込制、応募者多数の場合は抽選。
詳細は本誌13ページ参照

◆ボランティアによる庭園茶室ツアー

「草庵茶室に入ってみよう!」 事前申込制

通常のガイドツアーでは入らない、六窓庵と転合庵の内部をご案内します。

日時: 3月16日(木) 14:00～15:00

*雨天の場合は中止することがあります。
*事前申込制、応募者多数の場合は抽選。
詳細は本誌13ページ参照

◆ボランティアによる「応挙館 桜茶会」 事前申込制

庭園の応挙館でお茶会を体験していただきます。

日時: 3月26日(日)

① 11:00～12:00 ② 13:00～14:00 (各回とも同じ内容)

*悪天候の場合は中止することがあります。
参加費: 500円(別途、当日の入館料が必要)

*事前申込制、応募者多数の場合は抽選。
詳細は本誌13ページ参照

◆桜の街の音楽会

「東京・春・音楽祭」(本誌14ページ) 参加アーティストがトーハクに春の調べをお届けします。

日時: 3月31日(金) 13:00～13:20

チェロ・ソロ 会場: 本館大階段

日時: 4月3日(月) 13:00～13:20

ヴァイオリンとヴィオラのデュオ 会場: 法隆寺宝物館エントランス

主催・お問合せ 東京・春・音楽祭実行委員会

(TEL: 03-5205-6497)

ウェブサイト

<http://www.tokyo-harusai.com/>



◆春の庭園開放

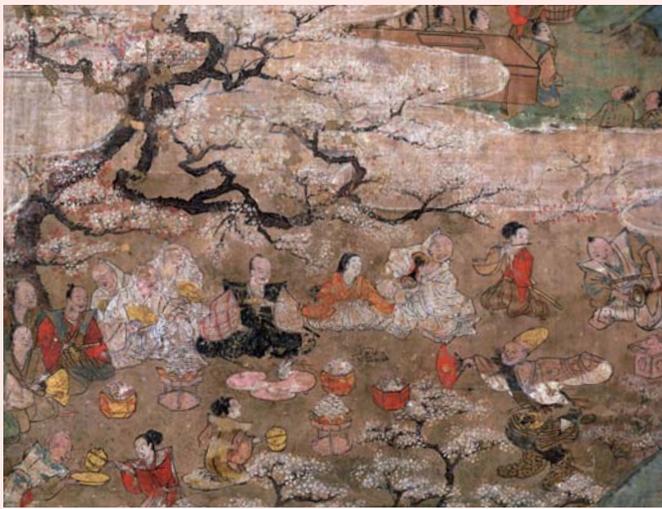
当館自慢の庭園を開放します。今年は特別に、例年より長い期間お楽しみいただけます。

3月14日(火)～5月7日(日) 10:00～16:00

*3月31日(金)、4月1日(土)・7日(金)・8日(土)はライトアップを実施、19:30まで

*悪天候により中止になる場合があります。

「なるほトーハク」で庭園に立つ茶室について紹介しています。本誌13ページをご覧ください



本館3室
つきなみふうぞくずひょうぶ
◎月次風俗図屏風

室町時代・16世紀
展示は3月22日(水)～
年中行事を描いた屏風の中に、賑やかな花見の光景が描かれています。

(部分)

桜の下で
大盛り上がり!



桜につくし、
たんぽぽも

本館10室
こぞでべにりんずしやえぞくつしたんぼほつちもよう
*小袖 紅綸子地八重桜土筆蒲公英燕模様

江戸時代・19世紀
桜樹の上でツバメが春を告げるうらかな情景は、宮廷女性の小袖の好みを表しています。



本館2室
かかゆらぐすひょうぶ
*花下遊楽図屏風

狩野長信筆 江戸時代・17世紀
今から400年前のお花見の様子。左に描かれていた宴の主人の姿は、関東大震災で失われてしまいました。

トーハクの本館

本館の展示室では、桜をモチ
お気に入りの桜

お花見を
描いた名品



本館8室
いろえおふうもんちつこうがたはち
*色絵桜楓文木瓜形鉢

仁阿弥道八作 江戸時代・19世紀
「雲錦手」という、桜と楓を合わせた意匠です。日本の四季を代表する美しい景色が凝縮されています。

桜イベントも 花ざかりです!

◆桜スタンプラリー

桜マークを探しながら展示室をめぐりましょう! 全てのスタンプを集めた方にはオリジナルバッジをプレゼント。「博物館でお花見」期間中、毎日開催します。
台紙の配布・バッジの引換え場所: 本館エントランス
(バッジの引換えは10:00～閉館まで)

◆鑑賞ガイド

桜にちなんだ作品の見どころをダイジェストでご紹介します。
日時: 3月22日(水) 14:00～14:30
講師: 勝木言一郎(教育講座室長)
日時: 3月31日(金) 18:30～19:00
講師: 小林牧(博物館教育課長)
日時: 4月5日(水) 14:00～14:30
講師: 神辺知加(教育講座室主任研究員)
会場: いずれも本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

特記以外はすべて参加無料(ただし、当日の入館料が必要)、事前申込み不要です。

◆桜ギャラリートーク

「春の香り」
日時: 3月16日(木) 14:00～14:30
講師: 田邊留美子(登録室アシリエイトフェロー)
会場: 本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

「屏風に咲く桜」

日時: 3月29日(水) 14:00～14:30
講師: 小野真由美(貸与特別観覧室主任研究員)
会場: 本館7室

「器に咲く桜」

日時: 4月7日(金) 18:30～19:00
講師: 横山梓(保存修復室研究員)
会場: 本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

◆桜セミナー

「桜の絵にみる美と心」
桜は日本を表すアイコンと呼ぶべきモチーフの一つです。桜が描かれた日本絵画を通じて、桜が日本人に愛された理由を考えます。
日時: 4月8日(土) 13:30～15:00(13:00開場予定)
講師: 山下善也(絵画・彫刻室主任研究員)
会場: 平成館大講堂
定員: 380名(先着順)

◆ボランティアによるガイドツアー

桜にちなんだ作品や構内の見頃の桜など、さまざまなテーマで「トーハクの桜」をご案内します。
*日時・テーマは本誌16ページ(3月分は今号、4月分は次号)、当館ウェブサイトでご確認ください。

◆東博会会「花見で一句」

桜咲く庭園や桜をモチーフにした作品をテーマに一句詠んでみませんか? ご応募は構内の投句ポストまで。入選作品は本誌8・9月号、当館ウェブサイトにて発表、記念品を贈呈します。「博物館でお花見」期間中、毎日受付。

◆桜ワークショップ「春らんまん 桜ぬりえ」

本館で展示中の桜をモチーフにした作品のぬりえです。思い思いに色をつけ、自分だけの春らしい作品をつくりましょう。
日時: 3月23日(木)・24日(金)・25日(土)・26日(日)
各日11:00～16:00
*ぬりえシートがなくなり次第終了
会場: 本館2階ラウンジ



手にすっぽり収まる深さで、絶妙にたわんだその形と火色の表情が見どころです



茶の湯

特別展

平成館
特別展示室

4月11日(火)～6月4日(日)

和物茶碗の最高峰！

●志野茶碗 銘 卯花塙

美濃 安土桃山時代・16～17世紀
東京・三井記念美術館蔵

美濃焼を代表する志野といえば、ほんのり赤い火色が差した白い釉肌が魅力。16～17世紀にかけて水指や花入、茶碗、懐石のうつわなど、茶湯道具の名品が数多く生まれました。「卯花塙」は、白釉の地に表わされた鉄絵の格子文様が卯の花の垣根に見立てられ、その名がつけました。



底が厚く、釉もたっぷり。手に取った時のずっしりとした重量感を想像してみてください

唐物天目の白眉

●油滴天目

中国・建窯 南宋時代・12～13世紀
大阪市立東洋陶磁美術館蔵

このような黒い茶碗を「天目」と呼ぶのは中国・浙江の天目山に学んだ日本の禅僧たちが喫茶の碗を持ち帰ったと伝わることに由来します。天目は唐物を愛好する風潮のなかで珍重され、金銀色の模様が油粒のように見える「油滴天目」はとりわけ高く評価されてきました。本作品は豊臣秀次所持と伝わる名碗です。

オールスターズ

茶の湯をテーマにした実に37年ぶりの大展示会。本展には、茶の湯にまつわる名品が勢ぞろいします。なかでも注目は名碗の数々。これだけの名品が揃うことはめったにない、大変貴重な機会です。



力強い轆轤目や歪みなど見る方向によって表情が変わりますよ

天下一の高麗茶碗

●大井戸茶碗 喜左衛門井戸

朝鮮 朝鮮時代・16世紀 京都・孤蓬庵蔵
展示期間:4月28日(金)～6月4日(日)

朝鮮時代に焼かれ、朝鮮から日本に運ばれて茶碗として用いられたものを広く「高麗茶碗」といいます。「井戸」はその代表格であり、「喜左衛門」は随一の名碗です。厳しい佇まいは、いかにも戦国の世を象徴するかのよう。名の由来となった竹田喜左衛門の後、本多能登守が手にしたことから別名「本多井戸」とも呼ばれます。

関連イベント

記念講演会 当日先着順

①「桃山の茶碗—和物茶碗」

日時:4月15日(土) 13:30～15:00(13:00開場予定)

講師:伊藤嘉章(九州国立博物館副館長)

②「茶の湯の魅力—日本、朝鮮、中国のやきものを中心に」

日時:5月13日(土) 13:30～15:00(13:00開場予定)

講師:三笠景子(当館東洋室主任研究員)

会場:平成館大講堂

定員:380名(先着順、全席指定)

*事前申込み不要。当日11:30より、大講堂前にて指定席券を配布

*講演会開始時に空席があった場合はキャンセル扱いとし、他のお客様をご案内することがあります。

茶碗だけではありません！茶の湯の名品ずらり。

●色絵若松図茶壺

仁清 江戸時代・17世紀
文化庁蔵

仁清の色絵茶壺のなかでも「仁清黒」と呼ばれる漆黒の釉薬が特徴的で、遠山に椿、桜、若松が浮かび上がります。



●唐物肩衝茶入 銘 初花

中国 南宋～元時代・13～14世紀
徳川記念財団蔵

展示期間:4月11日(火)～4月23日(日)
「檜柴」、「新田」と並び、天下の三肩衝と称された名茶入。堂々とした姿と流れる釉が見せる景色が見どころです。



●竹茶杓銘 ゆがみ

千利休 安土桃山時代・16世紀
東京・永青文庫蔵

千利休から細川三斎に形見として贈られたと伝わる茶杓。中央から先端にかけてのわずかな歪みに利休らしいさりげない趣が感じられます。



特別展

春日大社 千年の至宝

平成館
特別展示室

1月17日(火)～3月12日(日)



かしまだしんえいず
鹿島立神影図

南北朝～室町時代・14～15世紀
奈良・春日大社蔵

武甕槌命が鹿に乗り、春日の地に降臨した様子を描きます。神々しい武甕槌命のお顔、凛々しい鹿の表情に注目です

次のページで
「春日大社」展の
関連展示を
紹介しています!



開催概要 | 主催:東京国立博物館、春日大社、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社/協賛:岡村印刷工業/観覧料金:一般1,600円(1,300円)、大学生1,200円(900円)、高校生900円(600円) * ()内は20名以上の団体料金。中学生以下無料 * 障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください)/お問合せ:ハローダイヤル 03-5777-8600/展覧会公式サイト:<http://kasuga2017.jp/>

春日大社の始まりは?
春日大社の草創は今からおよそ1300年前、奈良時代にさかのぼります。平城京の東に位置する春日山は神の宿る山として都の人々から崇敬されてきました。この地に、遠く常陸国(現在の茨城県)鹿島から、武甕槌命という神様が降臨します。その後、経津主命、天兒屋根命、比売神を迎え、これら四柱の神々を祀る社

殿を造営したのが春日大社の始まりです。この時、武甕槌命は鹿の背に乗り、春日の地にやってきたと伝えられ、この「神鹿」の子孫こそが、今も奈良公園に遊ぶ鹿たちだと言われています。展覧会では創建のエピソードにゆかりある作品も展示しています。(土屋貞裕)



イメージ図 ©DESIGN OFFICE 10

本殿再現!

展覧会場では、普段は拝観できない国宝・春日大社本殿の一部を再現。祭祀の際の調度品や御簾の金具もかつて本殿で実際に使われていたものです。

利休の理想を表した楽茶碗

◎赤楽茶碗 銘 無一物

長次郎 安土桃山時代・16世紀 兵庫・瀬川美術館蔵
展示期間:4月11日(火)～5月7日(日)

天下の茶頭、千利休の指示を受けて楽焼を創始した長次郎の作。腰の折れた端正な姿で、裾から底にかけて器壁は厚く、下部に重みがあります。手にすっぽりと収まり、ごく自然になじむよう計算されたつくりです。利休が追究した茶の湯の理想を、一つのかたちに示したといわれる楽茶碗の代表作です。

ポイントは、大きさと重さ。手にとった時に心地良いように、緻密に計算して作られています



観覧ガイド付き

名碗

桃山茶陶の代表格

◎鼠志野茶碗 銘 山の端

美濃 安土桃山時代・16～17世紀
東京・根津美術館蔵

白い胎に鬼板と呼ばれる鉄分を含んだ泥漿で化粧をし、文様を掻き落としてから釉薬を掛けて焼きあげた「鼠志野」。見込みには草文がザクザクと刻まれ、胴部には檜垣と亀甲の文様が大胆に巡ります。また、胴部には引き締めたような段があり、手にしっかりと収まります。野趣に富み、表情豊かな美濃の名碗です。

陶工の創意に満ちた魅力たっぷりの茶碗です。さまざまな方向からご覧ください



開催概要 | 主催:東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社/協賛:日本写真印刷、三井住友海上火災保険、三井物産/観覧料:一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1000円/900円)、高校生900円(700円/600円) * ()内は前売/20名以上の団体料金。中学生以下無料 * 障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください) * 前売券は2016年12月5日(月)～4月10日(月)、東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ)、展覧会公式サイト、主要プレイガイドほかにて販売/お問合せ:ハローダイヤル 03-5777-8600/展覧会公式サイト:<http://chanoyu2017.jp/>

注目の展示



写し方はさまざま、原本と見比べて！

特集「春日権現験記絵模本Ⅲ」

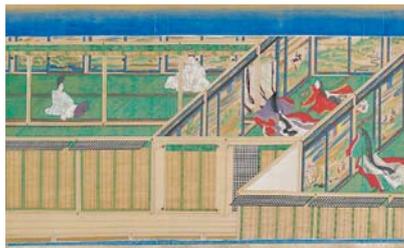
「写しの諸相」

3月12日(日)

●平成館 企画展示室

春日大社に祀られる神々の利益と靈験を描く春日権現験記絵(東京・三の丸尚蔵館所蔵)は、数ある絵巻作品の中でも最高峰の一つに数えられます。本特集は、この絵巻模本の魅力を紹介する3年にわたる企画で、最終回の今年「写しの諸相」をテーマとしました。

この展示では、陽明文庫本(近衛家伝来)、春日本(桑名松平家伝来)、徳川美術館本(阿波蜂須賀家伝来)、紀州本(紀伊徳川家伝来)、新宮本(新宮水野家伝来)、帝室博物館本といった、春日権現験記絵模本を一堂にご紹介します。それぞれの画面を比較しながら、何が同じで何が違うのか、ご注目いただければと思います。



春日権現験記絵(紀州本)巻三
冷泉為恭ほか筆 江戸時代・弘化2年(1845)



春日権現験記絵(春日本)巻三
江戸時代・文化4年(1807) 春日大社蔵

同じ場面を描いていますが、春日本は原本の損傷などもそのまま写す「剥落模写」、紀州本はこれを補う「復元模写」によって写されています。ともに展示は2月12日(日)まで

特別展「春日大社千年の至宝(本誌5ページ)では、三の丸尚蔵館蔵の原本巻十二・二十一も出品されますので、こちらと見比べながらご覧いただければ幸いです。(土屋貴裕)

若宮おん祭でも使われた名品が一堂に

特集「奈良・金春家伝来の能面・能装束」

能面・能装束

1月31日(火)〜3月26日(日)

●本館 特別1室・特別2室



◎能面 曲見

金春家伝来
室町時代・15〜16世紀
この面の傷までそっくりな写しが多く作られるほど尊重されました



◎縫箔
紅白段菊芦水鳥模様

金春家伝来
安土桃山時代・16世紀
十替りと呼ばれ、女性役のもっとも華やかな衣装として使われました

豊臣秀吉が大の能好きだったというのは、歴史好きの方はご存知かもしれません。秀吉に能を教え、ひいきにされたのが、大和猿楽四座の一つである金春家でした。金春家は長く奈良を本拠地とし、若宮おん祭で能を舞うなど春日大社と縁が深いことでも知られています。

その金春家に伝わった能狂言面と能装束類の一部が戦後、当館の所蔵となりました。面には造形が形式化する前にまで遡るもの、後世多くの写しが作られたものなどが含まれます。当時の最新技術と最高の素材が用いられた安土桃山時代の能装束は秀吉から下賜されたものでしょう。いずれも大変貴重なものです。

金春家伝来の面と装束の名品をまとめた形でご覧いただく初めての機会です。春日大社若宮おん祭でも使われたであろう能面、能装束をお楽しみください。(川岸瀬里)

まさに神仏習合、春日大社ゆかりの能

「能『春日龍神』の面・装束」

2月28日(火)〜4月16日(日)

●本館 9室

能「春日龍神」は、釈迦を慕う明恵上人が天竺(インド)の仏跡を訪ねようと春日明神にいとまごいに詣でたところ、神託を得て天竺行きを断念したという逸話を題材としています。明恵上人を天竺へ行かせたくなかった春日明神は、「釈迦がこの世を去った今では、春日山こそ釈迦説法の靈鷲山に等しい」と神託を下し、明恵上人の渡航を止めました。能の後場では、春日にいる明恵の目前に八大龍王が集まり、釈迦の説法を聴く場面を描き出してみせます。まさに神仏習合の表れである春日明神の意義を示しているといえるでしょう。

「春日龍神」は奈良の春日大社に奉仕した金春座中興の祖、禅竹創作と伝えられることから、春日大社にゆかりの深い能です。今回は、江戸時代の能面・能装束を中心に、この「春日龍神」をテーマにした展示をします。江戸時代に描かれた「能狂言絵巻」に表される能舞台の図と見比べながらお楽しみください。(小山弓弦葉)

能狂言絵巻(上巻)の内「春日龍神」

筆者不詳
江戸時代
18世紀
能「春日龍神」の後場の舞台を描いています。龍神が登場する場面です



狩衣
紺地雲龍丸模様
上杉家伝来
江戸時代・18世紀
龍神の役は、高貴な役柄に用いられる狩衣か法被を着用します

本館 日本に出会う

本館 14室

今年の注目！
見た目にも楽しい衣裳人形

特集 「おひなさまと 日本の人形」

2月21日(火)～4月16日(日)

3月3日は桃の節句。華やかで楽しいおひなさまの季節です。今年は修理後初公開となる大型の享保雛を中心に据え、江戸時代の人々をいきいきと写し取った衣裳人形も一堂に展示します。現存数が少ないこともあり、これだけの衣裳人形が並ぶのは極めて貴重な機会です。なかでも「台付機巧 輪舞人形」は必見の作品。花見の場で踊り遊ぶ様子が華やかに表された人形で、台座の棒をまわすと、人形が回転する仕掛けとなっています。台座内部には人形の作者や注文主、製作年なども記されており、人形史上の基準作としても重要な逸品です。

(三田寛之)



(部分)
台付機巧 輪舞人形
若荷屋半右衛門・川合谷五郎正真作 江戸時代・正徳3年(1713)
美しい若衆(わかしゅ)をはじめ、旦那(だんな)や奴(やつこ)が三味線の音色に合わせて踊り狂います

本館 15室 歴史の記録

ユニーク、いきいき、
生物&植物が大集合

「博物図譜」

2月21日(火)～4月16日(日)

江戸の博物学者らによって描かれた図譜のなかには、はっとするほど美しい植物の「遠西舶上画譜」や、あっと驚く大胆な構図で描かれた生物の姿がたくさんあります。なかでも人をにらみつけるような表情をもった、個性的な関根雲停筆の絵は必見です。明治時代の図譜では、稲の害虫やトリカブトなどをとりあげた「螟虫図解」「毒品便覧」などの実用的な掛図や、新しい図鑑を作るために奮闘した博物局の人たちの苦勞の跡がうかがえる「博物館魚譜」を展示します。ぜひご覧ください。(高橋裕次)



博物館写生図(野猫)
中島仰山筆
明治13年(1880)
マニラ産の野猫をスケッチしたものです



魚譜
関根雲停筆
江戸時代
天保14年(1843)
タコの生き生きとした表情をとらえています

本館 16室 アイヌと琉球

文様に込められた思いを読み解く

アットウシ(樹皮衣)

2月5日(日)

アイヌの人々は衣服や日常的に使うさまざまな道具に意匠を凝らした文様を施しました。ここにご紹介するアットウシ(樹皮衣)は、紺や水色の木綿裂を縫い付け、棘を表現したアイウシ文が色糸によって刺繍されています。刺繍は袖口や襟、裾に施され、魔物が侵入するのを防ぐ魔除けの役割があつたとされています。

こうした衣服を飾る文様は母から娘へと伝えられるもので、江戸時代末期の探検家、松浦武四郎が描いた「蝦夷漫画」には、砂浜で文様の練習をする女兒の姿が描かれています。
(飯田茂雄)

*「蝦夷漫画」の展示予定はありません。



アットウシ(樹皮衣)
北海道アイヌ 19世紀
木綿裂は北前船交易などによって和人から入っていました

本館 18室 近代の美術

実に87年ぶり！
大観の力作をいよいよ公開

梅図襖

1月24日(火)～3月5日(日)

国民的画家といわれた横山大観が、香立つほどに紅白の梅を華やかに描いています。香淳皇后(昭和天皇の皇后)の父、久邇宮邦彦王が大正13年(1924)に建てた御常御殿と呼ばれる建物を飾った襖絵です。多くの日本画家たちが制作に参加して、御殿はさながら美術館のように彩られました。昭和5年(1930)の第2回聖徳太子奉讃展で展示されて以来、公開されたことのない大観の力作です。現在、聖心女子大学が管理する御常御殿に残った天井画も合わせて展示される、またない機会です。

(松嶋雅人)



梅図襖 横山大観筆 大正15年(1926) 団体所有 87年ぶりに公開される秘蔵の襖絵です

号の由来などは不明ですが、刀身とその刀装が古くから伝わった点は貴重です



—3/12 日
◎黒糸威二枚胴具足
江戸時代・17世紀
徳川家康の四天王の1人、榊原康政が用いたもので、当世具足の優品です

4 茶の美術
耳付茶入 銘 於大名 美濃
江戸時代・17世紀
塩原千代氏寄贈
小堀遠州が八条宮智仁親王より拝領したと伝えられる茶入です



—3/20 月祝
志野茶碗 銘 橋姫 美濃
安土桃山～江戸時代・16～17世紀
松永安左工門氏寄贈
志野茶碗のなかでもことに大きく、堂々としています



本館 ⑤室
武士の装い
—平安～江戸



本館 ④室
茶の美術

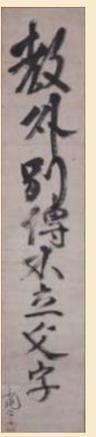
3-3 禅と水墨画
—鎌倉～室町

2/7 火—3/20 月祝
◎團棋観瀑図屏風 伝狩野元信筆
室町時代・16世紀 増岡ソマ氏寄贈
大画面に展開する大いなる自然を満喫してください



(左隻)

—2/5 日
一行書
「教外別伝不立文字」
—休宗純筆
室町時代・15世紀
真の仏の教えは言葉の外にある、という禅の根本を説いた八文字



2/7 火—3/20 月祝

◎銅梅竹透釣燈籠
千葉市中央区千葉寺町千葉寺址出土
室町時代・天文19年(1550)
畑野勇治郎氏寄贈
金の産地として有名な天命(現栃木県佐野市)で作られた秀麗な燈籠です



—2/5 日 古今和歌集切(卷子本)



藤原定実筆
平安時代・12世紀
森田竹華氏寄贈
蠟箋(ろうせん)という珍しい紙に調和する流麗な筆運びです

3-2 宮廷の美術
—平安～室町



(部分)

—2/12 日 ◎樓閣山水図屏風 池大雅筆
江戸時代・18世紀 團伊能氏寄贈
中国の著名な景勝地を描いた屏風。金地に映える人物の鮮やかな色彩にご注目ください



(部分)

2 国宝室

2/14 火—3/12 日

◎群書治要 卷三十一
平安時代・11世紀
唐の太宗の命により編纂された、治政の参考書



(左隻)

3/14 火—4/9 日

◎花下遊楽図屏風
狩野長信筆
江戸時代・17世紀
→本誌3ページ

3-1 仏教の美術
—平安～室町



2/7 火—3/20 月祝
釈迦三尊十六羅漢像
鎌倉時代・14世紀
釈迦信仰・密教・聖徳太子信仰を融合、鼓吹した真言律宗の思想を反映した作例



—3/20 月祝
◎毘沙門天立像
平安時代・応保2年(1162)頃
川端龍子氏寄贈
均整のとれた体つき、きらびやかな彩色はまさに王朝貴族の美意識です

術の流れ

戸まで、どる日本美術史



入口
本館 ①①室 日本美術のあけぼの — 縄文・弥生・古墳
本館 ①②室 仏教の興隆 — 飛鳥・奈良
本館 ②室 国宝室

1-1 日本美術のあけぼの
— 縄文・弥生・古墳

—7/16 日 壺形土器

青森県五戸町倉石中市日向出土
縄文時代(後期)・前2000～前1000年
棺として死者を葬るにふさわしい美しさを備える大形の壺形土器です

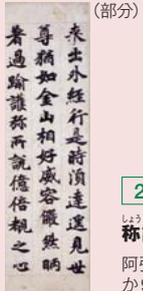


袈裟禪文銅鐸(三遠式)
静岡県浜松市北区
細江町中川(悪ヶ谷)出土
弥生時代(後期)・1～3世紀
鹿と水鳥が描かれた大きくて華麗な銅鐸です

1-2 仏教の興隆
— 飛鳥・奈良

—2/5 日 賢愚経断简(大聖武)

伝聖武天皇筆 奈良時代・8世紀
筒井邦子氏寄贈
賢者と愚者に関する語を集め、聖武天皇の筆跡と伝える真弓紙の経切です



(部分)

2/7 火—3/20 月祝

◎称讚浄土仏撰受経 奈良時代・8世紀
阿弥陀経を訳したもので、天平時代のわがが9年間に漉かれた真弓紙を使っています

(部分)

8-9ページに掲載の作品について、音声と文字による詳しい解説を、スマートフォン向けアプリ「トーハクナビ」で公開しています。一部作品は対象外となりますので、展示室でトーハクナビマークをご確認ください。 *展示室で音声ガイドをご利用になる場合は、イヤホンが必要です。 *は「博物館でお花見」関連作品です

7

屏風と襖絵

— 安土桃山・江戸



(部分)

2/7 火 — 3/20 月・祝

山水人物図襖

呉春筆

江戸時代・18世紀
植松嘉代子氏寄贈
呉春晩年の大作で、
円山応挙の人物画の
影響が顕著にみられ
ます



(右隻)

— 2/5 日

西湖春景・銭塘観潮図屏風

池大雅筆 江戸時代・18世紀
中国に行ったことがなくても描けちゃ
います。大雅の非凡な想像力に脱帽！

5

6

3/22 水 — 6/4 日

武士の装い

— 平安～江戸

◎太刀 無銘 大和物(号 獅子王)

平安時代・12世紀

◎黒漆太刀(◎太刀 無銘 大和物
(号 獅子王)の拵)

鎌倉時代・13～14世紀



本館 7 室

屏風と襖絵
— 安土桃山・江戸



本館 6 室

武士の装い
— 平安～江戸

8 - 1

暮らしの調度

— 安土桃山・江戸

1/31 火 — 4/16 日

枝垂桜蒔絵箱

江戸時代・17世紀
広田松繁氏寄贈

枝葉を巧みに配し、一本の
枝垂桜で器表を覆うよう
なデザインです



— 1/29 日

群鶴蒔絵硯箱

江戸時代・18世紀 松永安左工門氏寄贈
大胆な構図と鉛板の使い方が、当時人気
の光琳風です



本館 8-1 室

暮らしの調度
— 安土桃山・江戸

総合文化展 | 見どころ案内

本館 2 階

[2月03月]

日本美

縄文から江 ほんものでた



本館 8-2 室

書画の展開
— 安土桃山・江戸

8 - 2

書画の展開

— 安土桃山・江戸

— 2/5 日

新三十六歌仙図帖(下帖)

狩野探幽筆 江戸時代・寛文4年(1664)

繊細にして華麗、將軍綱吉に嫁ぐ娘に鷹司府
輔が贈った名品です

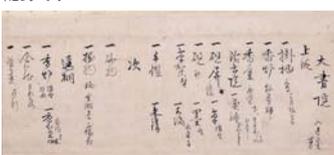


2/7 火 — 3/20 月・祝

茶事控書

江戸時代・17世紀 金谷寛氏寄贈

大きな茶会のしつらえの様子がうかがわれる
記録です



周茂叔林和靖図屏風

狩野探幽筆 江戸時代・17世紀

中国の著名な文人たちの故事をマルチス
タイル風に表しています (部分)



9

能と歌舞伎

— 2/26 日

能装束や中啓に表される
伝統的な日本の吉祥模様
をご紹介します。

唐織 紅地椿牡丹蝶宝模様

江戸時代・19世紀 文化庁蔵
「長春花」と称される椿、富貴の花である
牡丹など吉祥に満ちたデザインです



2/28 火 — 4/16 日

謡曲「春日龍神」をテーマに、
江戸時代の能面・能装束を
中心に展示します。

狩衣 紺地雲龍丸模様

江戸時代・18世紀
龍の模様を織り出した華やかな
金襴の狩衣です



【衣装】 — 2/26 日

吉祥模様を表した華やかな
女性の着姿を紹介します。

◎小袖 黒紅輪子地 草木鶴亀幾何学形模様

江戸時代・17世紀
さまざまな吉祥模様を表した江戸
時代初期の着姿です

2/28 火 — 4/16 日

春の訪れが感じられる花の模様や、
江戸時代の婚礼衣装を中心に紹介します。

小袖 茶平絹地椿枝垂柳掛軸模様

江戸時代・18世紀
雛形本にも掲載されるデザイン。
友禅染の優品です



10

浮世絵と衣装 — 江戸

【浮世絵】

— 1/29 日

お正月にちなんで、羽根突や万歳、
吉祥モチーフを描いた作品を紹介します。

隅田川図巻

鳥文斎栄之筆
江戸時代・19世紀

恵比須、大黒天、
福祿寿が隅田川
を上って吉原通
い。3福神が揃っ
て縁起が良い



1/31 火 — 2/26 日

天神様や、梅や雪をテーマとした2月に
ふさわしい作品を中心に展示します。

◎雪中美人と下男

栄松斎長喜筆
江戸時代・18世紀
胡粉の雪が静かに舞い落ちる。情感
溢れる作品



2/28 火 — 3/20 月・祝

肉筆画の優品と春らしい
作品を中心に紹介します。

縁先美人図

筆者不詳
江戸時代・17世紀
寛文美人を代表する優品です



東洋館

アジアを旅する

東洋館 5室 「中国の青銅器」

古代の音色に思いを馳せる

鑄

5月14日(日)

西周王朝(前11〜前8世紀)から戦国時代(前5〜前3世紀)にかけては、儀式のための楽器がさかんに作られました。鑄もそのひとつ。鐘とも呼ばれますが、下部が平らで大型のものを特に鑄といいますが、鳴らすときは、吊り下げて表面をたたきます。一方、日本の弥生時代の銅鐸は、風鈴のように内側に舌と呼ぶ棒をぶらさげて音を奏でました。

東洋館で展示している本品の音を聴くことはできませんが、平成館考古展示室には銅鐸の再現品があり、音色を楽しむことができます。鑄も銅鐸と同じ青銅製。銅鐸の音色を手がかりに、鑄の音色を想像してみてください。(市元壘)



鑄
中国 戦国時代・前5世紀
坂本キク氏寄贈
蟠(ち/小龍)が絡みあう「蟠螭文(ばんちもん)」にもご注目!

東洋館 8室 「中国の絵画・書跡」

近代上海の流行を知る

近代の絵画

2月28日(火)〜4月9日(日)

19世紀後半、急速に経済発展した上海では、新興階級の好みに合わせて、わかりやすく、明るい色調の絵画が流行しました。字の伯年で知られる任頤は、このような上海画壇を主導した画家の1人。「九老図」では、唐の詩人・白居易の雅会という伝統主題を選びつつ、歴史上の人物を親しみのある老人たちとして描いています。ひそひそ話をしたり、筆の穂先を整えたりする彼らの動作は、どこかユーモラスです。衣や器物に施されたさわやかな淡彩は、近代上海の清新な美意識を伝えています。(植松瑞希)



九老図 (部分)
任頤筆 中国 清時代・光緒9年(1883)
林宗毅氏寄贈
年老いて洛陽の香山に隠居した白居易と、そこに集って風雅な遊びに興じた友人たちを描きます



東洋館 10室 「朝鮮時代の美術」

鮮やかな刺繍屏風、当館初公開!

刺繍花鳥図屏風

4月9日(日)

韓国の歴史ドラマをご覧になった方は、王妃が座る背景に、このような八曲屏風が飾られているのをご存じでしょう。朝鮮時代には、正月をはじめとする年中行事や、婚礼・出産・還暦などの吉事において、吉祥文様を表した屏風を飾る習慣がありました。この屏風には四季折々の花と蝶を刺繍し、8扇目には2人の女性と「寿福康寧 富貴多男」の8文字を刺繍しています。男児がたくさん生まれることを願った内容から、婚礼用、あるいは出産時にあつらえられたものでしょう。当館初公開となります。(小山弓弦葉)



(部分)



刺繍花鳥図屏風
朝鮮時代・19〜20世紀
鮮やかな色の組み合わせは、朝鮮時代の染織にみられる特徴です

東洋館 13室 「アジアの染織」

部族ごとに特色ある文様と色使い

遊牧民の染織

4月9日(日)

アジアの遊牧民が生活のために制作した織物や刺繍は、放牧する家畜の毛をつむぎ、染料で染め、部族に特色のある文様を表しています。当館に収められた180件あまりのコレクションは、遊牧民研究家・松島清江氏が1960年代から1980年代にかけて調査の傍ら現地 で収集しました。遊牧民が減少する今となっては、大変貴重なものとなっています。写真の敷物は、イランの遊牧民に特有の複雑に抽象化された鮮やかな色彩による綴織で、中央に大きくデザインされた菱文様が特徴的です。(小山弓弦葉)



敷物 黒地入り菱抽象文様綴織 イラン 20世紀前半
複雑な文様を色彩豊かにシンメトリーに織り出した、手織の敷物です

法隆寺宝物館

宝物に浸る

平成館

考古で遊ぶ

●平成館 考古展示室

銅鐸の謎を解く鍵となる!?

重文 突線鈕5式銅鐸

通年

謎に満ちた青銅器、銅鐸。だが、何のために作ったものなのか。そしてなぜ大地に埋められ、人々の記憶からも消え失せてしまったのか。こうした問題に迫ろうとする時、なくてはならないのがこの銅鐸です。この銅鐸は明治14年(1881)に10個まとまって発見されたものの一つ。高さ134.7cm、重さ45.5kg、日本最大の銅鐸です。かつては神々しい光を放ち、神秘的な音を奏でた銅鐸。やがてその音は消えてしまいますが、その造形は洗練さをきわめ、かくも見事な大型の銅



◎突線鈕5式銅鐸
滋賀県野洲市小篠原山
大岩山出土
弥生時代(後期)・
1~3世紀
銅鐸埋納の謎を解く鍵となる日本最大の銅鐸。製作当時は神々しく輝いていました

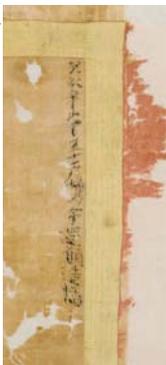
鐸が誕生します。この遺跡からは昭和37年(1962)にも14個の銅鐸がまとまって発見されています。こうした銅鐸の集積埋納はラムラの統合を意味し、そこに新たな社会が誕生したとみる考えもあります。さて、みなさんのお考えは?
(井上洋一)

●法隆寺宝物館 第6室

銘の残る染織品の稀少な例

「在銘幡 文字が記された染織品」

2月14日(火)~3月12日(日)
「幡」とは仏教儀式の場を飾る旗のことで、イメージとしてはスルメイカのような形で、三角形の幡頭に長方形の幡身がつき、その下に幾本もの幡足が下がっています。



(部分)

と知ることができます。
さて、これらの幡の中には故人の名前や奉納した日付が記されたものもあり、「在銘幡」と呼んでいます。古代の染織品において具体的な日時が記されたものは極めて貴重です。そのため、在銘幡は時代によってどのように幡の形が変化したのか、また、謎が多い法隆寺の再建時期などを考えるうえでも重要な指標を示してくれるのです。今回の展示では、5件の在銘幡を展示します。
(三田寛之)

『灌頂経』というお経には、故人の冥福を祈るため、49日の間、黄色い幡を掲げる儀式が記されています。法隆寺宝物館の献納宝物にも黄色い幡が複数伝えられていますが、中には「過ぎし命のために願いてこの幡を造る」と記されたものがあり、お経の通りに作られた

1000年後の未来に パトンタッチ!

保存と修理情報

39

博物館の虫対策

文化財に用いられる木・紙・皮といった素材は、一部の虫にとっては格好の餌になるものです。建物の隙間から入り込んだ彼らは、館内で繁殖すると貴重な文化財を破壊する恐ろしい存在になってしまいます。

そこで当館では、毎年夏に

虫の捕獲調査を行い、対策を講じています。館内各所にトラップ(罠)を設置し、どこに



虫の調査用トラップ。図面と照合しながら、館内に約300個を設置します



害虫が発見された地点には薬剤(写真右端)を置き、再度トラップ(写真左端)を仕掛けて薬剤の効果を検証します

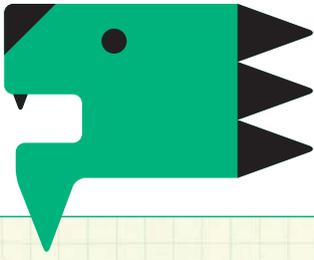
どのような虫が潜んでいるかを徹底的に調べ上げます。

2016年度も様々な虫が捕獲されましたが、中でも問題になるのは文化財を害する虫です。対策として、紙を食べる虫がいる所にはその虫が嫌う薬を置き、埃やカビを好む虫のいる所には周辺の清掃を重点的に行い、湿気を好む虫に対してはその空間の空調設定を見直します。木の節穴などに棲む微小な生物を除去する必要がある場合は、隔離して燻蒸庫で処置することもあります。こうして各々の虫が繁殖しにくい条件を整え、害虫を寄せつけない環境を作ります。

日本の文化財を後世に伝えるため、虫対策は古来続けられて来ました。昔ながらの清掃で清潔な環境づくりを心がけつつ、重大な被害が起こりそうな場合には薬品処理を取り入れて、博物館の虫対策は続きます。
(井上素子)



燻蒸庫での燻蒸の様子



みどりのライオン

みんなで楽しむ教育スペース
EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터

教育普及事業

PART
1

知る楽しみ、学ぶ喜び

講演会・ギャラリートーク・ガイダンス

講演会

月例講演会「奈良・金春家の能と能面・能装束」 *関連展示:本誌6ページ
日時:2月25日(土) 13:30~15:00 講師:小山弓弦葉(工芸室長)

金春家は、室町時代より江戸時代まで奈良を拠点とし、春日大社や興福寺に奉仕した猿楽(能)の一座です。金春家が所蔵していた能面・能装束の特色を金春家の歴史とともに語ります。

月例講演会「仏像伝来—中国そして日本へ—」

日時:3月11日(土) 13:30~15:00 講師:松本伸之(副館長)

中国と日本、それぞれの国の仏像のはじまりに焦点を当てながら、両国がどのように仏像を受容してきたか、その実態を探ります。

連携講演会「董其昌とその時代—明末清初の連続趣味—」

日時:2月4日(土) 13:30~15:00

講師:鍋島稲子(台東区立書道博物館主任研究員)、富田淳(当館学芸研究部長)
中国書画の理論と実作において類まれな才能を開花させ、後世に大きな影響を与えた董其昌の尽きせぬ魅力に迫ります。

*会場は平成館大講堂、定員380名(先着順)、聴講無料(ただし当日の入館料が必要)。

*開場は開始の30分前(予定)。

ギャラリートーク

如意輪観音菩薩坐像に隠された信仰

日時:2月14日(火) 14:00~14:30 本館11室

講師:西木政統(絵画・彫刻室アソシエイトフェロー)

当館所蔵の如意輪観音菩薩坐像は、X線CT撮影により頭部内に仏像や光背などが納められていると判明しました。これら納入品とその信仰に迫ります。

必見! 法隆寺献納宝物—金銀の輝き—

日時:2月17日(金) 18:30~19:00 法隆寺宝物館第1室・第5室(集合:第1室)

講師:松本伸之(副館長)

法隆寺献納宝物のなかから、金と銀のまばゆい輝きを放つ金工の優品を取り上げ、古代の高度な技術や、類まれな価値と魅力を探ります。

東方へ伝わった天使

日時:2月28日(火) 14:00~14:30

東洋館ミュージアムシアター 講師:勝木言一郎(教育講座室長)

あたかもキリスト教の天使のように、背に鳥の翼をつけた人物像が、仏教図像の中に取り込まれ、東方へと伝播していった流れを解説します。

楽しみて
当白まで
待てんし...



博物図譜の世界 *関連展示:本誌7ページ

日時:3月7日(火) 14:00~14:30 本館15室

講師:高橋裕次(保存修復課長)

江戸の博物学者らによって描かれたさまざまなジャンルにわたる楽しい博物図譜をご覧ください。

特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

日時:3月24日(金) 18:30~19:00 平成館企画展示室

講師:高橋裕次(保存修復課長)

絵画、陶磁器、考古遺物など、さまざまな分野の作品について行った修理の内容やその成果を、わかりやすく紹介します。

保存と修理 絵画修理の現場から

日時:3月28日(火) 14:00~14:30 平成館企画展示室

講師:平河智恵(保存修復室アソシエイトフェロー)

下田純平(保存修復室アソシエイトフェロー)

作品の状態や展示活用にあわせた処置を、展示作品を見ながらご紹介します。

東京藝大大学院インターンによるギャラリートーク

毎年好評の藝大生によるギャラリートーク。2・3月は、本館、平成館考古展示室で行います。(各回15:30~15:50)

アイヌの飾太刀にみる折りの造形

2/1(水)・8(水)・15(水)・24(金)・28(火)

解説:石坂玲 本館16室(集合:本館エントランス)

儀礼に用いられたアイヌの飾太刀。その装飾と形から、折りの造形感覚を読み解きます。

英一蝶の「富士山図」を覗よう

2/2(木)・5(日)

解説:水谷文美 本館8室(集合:本館エントランス)

描かれた富士山の姿を手がかりに、英一蝶の風俗画家としての表現をひも解きます。

「突線鈕5式銅鐸」をじっくり見てみよう

2/9(木)・11(土・祝)・16(木)・23(木)・25(土)、3/2(木)

解説:宮澤大 平成館考古展示室(集合:平成館考古展示室入口)

銅鐸のなかでも最大の突線鈕5式銅鐸を見つめ直し、魅力を再発見します。

奈良時代の乾漆像「日光菩薩坐像」に迫る!

2/17(金)・21(火)・22(水)、3/1(水)・10(金)

解説:樺原千寿帆 本館1室(集合:本館エントランス)

柔らかな肌にしなやかな衣。リアルを求めた奈良時代の仏像の魅力をお伝えします。

PART
2

五感を使った美術体験

ワークショップ

事前申込制 [ウェブサイトフォーム]

ワークショップ 「ひいな遊び—立雛を作ろう!—」

ひなまつりの伝統は、平安時代ころから行われた「ひいな遊び」にさかのぼります。今回のワークショップでは当館所蔵の「古式立雛」をモデルに、頭を作って顔を描き、着物にする料紙(文様のある和紙)を摺って、オリジナルのおひなさまを作ります。

日時:2月25日(土) ①10:00~12:30 ②14:00~16:30

場所:本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

対象:①小学生~中学生とその保護者 ②高校生以上

定員:①10組 ②20名(いずれも応募者多数の場合は抽選)

参加費:無料(ただし高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)

申込方法:当館ウェブサイトのフォームでお申込みください

*①は1組5名まで、②は2名まで申込可

申込締切:①②ともに2月14日(火) 必着



古式立雛
江戸時代:17~18世紀
展示期間:2月21日(火)
~4月16日(日)
本館14室

事前申込制 [ウェブサイトフォーム]

ワークショップ 「友禅染に挑戦」

布に模様を染める技法のひとつ、友禅染。絹地に、筆や刷毛を使って色を挿し、着物のような華やかな模様をつくり出してみませんか?

日時:3月26日(日) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00

場所:本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)

対象:①小学4年生~中学3年生とその保護者(2人1組)

②高校生以上

定員:①10組20名 ②15名(いずれも応募者多数の場合は抽選)

参加費:無料(ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)

申込方法:当館ウェブサイトのフォームでお申込みください

*①②ともに1回の入力で2名まで申込可

申込締切:①②ともに3月7日(火) 必着



お問合せ:TEL 03-3822-1111(代) 教育普及室

あなたの鑑賞をサポート

ボランティアによる事業

事前申込制 [往復はがき、ウェブサイトフォーム]

アートスタジオ 「桜の根付作り」

本館10室と高円宮コレクションの根付の展示を見学後、粘土を加工して桜をテーマにオリジナルの根付を制作します。完成品はお持ち帰りいただけます。

日時：3月25日(土) 13:30~15:30
会場：本館地下 みどりのライオン(教育普及スペース)
対象：高校生以上
定員：20名程度(応募者多数の場合は抽選)
参加費：無料(ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)

申込方法：当館ウェブサイトのフォームか往復はがきでお申込みください。往復はがきの場合には、「往信用裏面」に(1)参加者全員(2名まで)の氏名・ふりがな、(2)参加者全員の郵便番号・住所、(3)代表者の電話番号、また「返信用表面」に代表者の郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記申込先にお送りください。
*一枚のはがきで2名まで申込可
申込締切：2月23日(木) 必着
申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館ボランティア室「3月25日桜の根付作り」係

事前申込制 [往復はがき]

応挙館での茶会 「応挙館 桜茶会」

庭園の応挙館でお茶会を体験していただけます。建物、および円山応挙によって描かれた障壁画などについてもあわせてご紹介いたします。
*悪天候の場合は中止することがあります。

日時：3月26日(日)
①11:00~12:00 ②13:00~14:00 (各回とも同じ内容)

会場：応挙館
定員：各回15名(応募者多数の場合は抽選)
参加費：500円(高校生を除く18歳以上70歳未満の方は別途、当日の入館料が必要)
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に(1)参加者全員(2名まで)の氏名・ふりがな、(2)参加者全員の郵便番号・住所、(3)代表者の電話番号、(4)希望の回(①か②のいずれか)、(5)座いすが必要な方はその旨を、「返信用表面」に代表者の郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記申込先にお送りください。
*一枚のはがきで、①②のどちらか一方、2名まで申込可。
申込締切：2月20日(月) 必着
申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館ボランティア室「3月26日応挙館桜茶会」係

庭園茶室ツアー 「草庵茶室に入ってみよう！」

庭園内にある茶室の見所について解説します。通常のガイドツアーでは入らない、六窓庵と転合庵の内部までご案内します。
*雨天の場合は中止することがあります。

日時：3月16日(木) 14:00~15:00
会場：六窓庵、転合庵
定員：16名(応募者多数の場合は抽選)
参加費：無料(ただし、高校生を除く18歳以上70歳未満の方は当日の入館料が必要)
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に(1)参加者全員(2名まで)の氏名・ふりがな、(2)参加者全員の郵便番号・住所(3)代表者の電話番号を、「返信用表面」に代表者の郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記申込先にお送りください。
*一枚のはがきで、最大2名まで申込可。
申込締切：2月16日(木) 必着
申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館ボランティア室「3月16日草庵茶室」係

お問合せ：TEL 03-3822-1111(代) ボランティア室

*事前申込プログラムにお申込みいただいた方には、当落に関わらずご連絡します。実施日の3日前までに受講可否の返答がない場合は、通信トラブルの可能性もありますので、各申込先に電話でお問合せください。TEL:03-3822-1111(代)
*各種催し物にご応募の際に提供いただいた個人情報、当該の目的のみ使用させていただきます。終了後はすみやかに破棄します。
*インターネットからのお申込みができない方は、お電話でお問合せください。



は!にわ(庭)のお茶室について知りたいほ!

トナーハクの本館北側に広がる庭園内の5棟の茶室は、関西などにあった建物が今日までに当館敷地内に移設されたものです。今回は、もともと茶室として建てられた「六窓庵」と「転合庵」について、トナーハクくんとユリノキちゃんをご紹介します。

- お茶室ってなんだほ?
- お茶会をするところよ。お客さんのためにお花や美術品で飾ったお茶室でお抹茶を点てて飲んでもらうの。
- えーお茶だけ? お菓子は無いんだほ? お抹茶は苦いほ...
- もちろんお菓子も一緒にいただくのよ。お食事をすることもあるわ。
- ほほーい! 楽しそうだほ。でもトナーハクのお茶室はいつも閉まっているほ。中でこっそり職員さんがお茶会してるんだほ?
- こっそりじゃないけど、建物は使わないと荒れる、ということで、昭和の初めごろは、月に2回、六窓庵で当時の美術課長さんがお茶会をして使っていたそうよ。



昭和25年(1950)「博物館友の会」大会では、国宝「紅白芙蓉図」(上)など館蔵の名品を茶席飾として会員の方にご覧いただいたことも

六窓庵は、奈良の興福寺塔頭であった慈眼院に茶人・金森宗和が建てたと伝わる茶室を博物館が購入、明治10年(1877)に移築されたもので、5つの茶室の中で最も古くから博物館にあります。戦争中は、焼失を逃れるため一旦解体。部材は博物館の地下室で保管され、昭和22年(1947)に名数奇屋師によって現在の場所に再建されました。戦後は貸席や「博物館友の会」の会合に使われており、現在も有料でご利用いただけます。

- 疎開のために解体する前には、戦争中で大変だったけどお別れにお茶会をしたんですって。
- 無事にまた建てられて、お茶も点えられるほー

この六窓庵のお隣にあるのが転合庵。江戸時代の茶人・小堀遠州が、桂宮から拝領した茶入を披露するために建てたと伝わっています。昭和38年(1963)にその茶入(銘 於大名、本誌8ページ参照)、転合庵条目、扁額などとともに博物館に寄贈されました。建立以来何度か移築されており、当初の間取りとは変わっているようです。

- 小堀遠州さんが書いた転合庵の条目には、雪の朝やお月見、お花見の時はお酒も乱れない程度に飲み放題、って書いてあるって聞いたわ。
- 無礼講だほー!

今年の春の庭園開放期間中には転合庵の内部を外からご覧いただけます(4月11日(火)~5月7日(日))。お花見の折にはぜひお立ち寄りを。



「大和の三茶室」に数えられた六窓庵



小堀遠州ゆかりの転合庵



当館に移築した頃の転合庵

夜の音めぐり～桜の街の音楽会スペシャル～

夜のトークを「東京・春・音楽祭」参加アーティストの音色で彩ります。
 日時 3月10日(金) 16:00～(正門内池前)、17:30～(本館大階段)、
 18:30～(東洋館1室)、19:10～(平成館ラウンジ) *各回20分程度
 料金:無料(ただし当日の入館料が必要)
 主催・お問合せ 東京・春・音楽祭実行委員会(TEL:03-5205-6497)
 ウェブサイト <http://www.tokyo-harusai.com/>

東京・春・音楽祭 ー東京のオペラの森2017ー

- ① 東博でバッハvol.32 御喜美江(アコーディオン)
 日時 3月22日(水) 開演19:00 開場18:30
- ② 東博でバッハvol.33 イェンス＝ペーター・マインツ(チェロ)
 日時 3月25日(土) 開演14:00 開場13:30
- ③ 東博でバッハvol.34 北村幹幹(ピアノ)
 日時 3月28日(火) 開演19:00 開場18:30
- ④ 東博でバッハvol.35 大塚直哉(チェンバロ)
 日時 4月5日(水) 開演19:00 開場18:30
- ⑤ 東博でバッハvol.36 村治奏一(ギター)
 日時 4月12日(水) 開演19:00 開場18:30

会場:①④⑤法隆寺宝物館エントランス ②③平成館ラウンジ
 料金:各回3,600円(全席自由)
 *チケットのお求め方法、並びにイベントの詳細は、東京・春・音楽祭ウェブサイト(<http://www.tokyo-harusai.com/>)でご確認ください。
 主催・お問合せ 東京・春・音楽祭実行委員会(TEL:03-5205-6497)

大エジプト博物館と交流・協力に関する覚書の署名

2016年10月1日、当館とカイロに建設中の大エジプト博物館(GEM)は、両館の交流・協力に関する覚書の署名を行いました。今後、両館の展示・運営についての協力や研究員の交流、相互研修の実施などを進めていきます。GEMは、2018年頃に部分開館の予定です。

新たな会員制度について

当館では、2017年4月1日(土)より、新たな会員制度「国立博物館メンバーズパス(4館共通)」「メンバーズプレミアムパス」「友の会」を運用します。
 *現在の会員制度は2017年3月31日(金)で販売を終了します。2017年3月31日(金)までに購入された会員証については、有効期限内は現会員制度の特典を利用できます。

特典	国立博物館 メンバーズパス	メンバーズ プレミアムパス	友の会
当館 総合文化展無料観覧 ※1	1名まで ※2	1名まで ※2	1名まで ※2
他の国立博物館(京都、奈良、九州) 平常展無料観覧 ※1	1名まで ※2	1名まで ※2	1名まで ※2
国立博物館(4館) 特別展割引観覧(団体料金) ※1	1名まで ※2 ※3	1名まで ※2 ※3	1名まで ※2
当館 特別展無料観覧券	—	4枚 ※3	6枚
当館 総合文化展招待券	—	—	6枚
「東京国立博物館ニュース」送付(年6回)	—	+900円(希望者のみ)	○
メールマガジン配信(希望者のみ)	—	○	○
レストラン・カフェ割引	—	—	10%
ミュージアムショップ割引(特別展会場、一部商品を除く)	—	—	5%
イベント優待割引	—	—	○
一般料金(税込)	2,000円	5,000円	8,000円
学生料金(税込)	1,000円	3,500円	—

※1: 何度でも ※2: 本人のみ利用可 ※3: 学生の方は大学生用の観覧料金(団体料金)、無料観覧券

研究情報アーカイブズのリニューアルについて

当館研究員の研究成果および事業実績の情報と、館所蔵古地図等のデータベースを提供するサイト「東京国立博物館 情報アーカイブ」をリニューアルしました。これに伴い、サイト名を「研究情報アーカイブズ」と改め、研究者だけでなく一般の方々にも見やすいようデザインも変更しています。以前より詳細な情報を掲載し、より多くの研究・事業実績を公開していきます。ぜひご利用ください。 <http://webarchives.tnm.jp>

東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、総合文化展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同をいただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。

- ◎年会費
 - 〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上
 - 特別会員 100万円(1口)
 - 維持会員 20万円
 - 〈個人〉プレミアム会員 100万円以上
 - 特別会員 20万円/維持会員 5万円

- ◎主な特典
 - 特別展の内覧会にご招待
 - 東京国立博物館ニュースの送付
- ◎申込方法

当館窓口のほか、当館ウェブサイト(クレジットカード決済)、銀行振込で随時受け付けています。
- ◎お問合せ

東京国立博物館総務部 賛助会担当
 電話 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2017年1月12日現在

特別会員	維持会員 団体	個人
日本電設工業株式会社様 株式会社 コア様 大日本印刷株式会社様 毎日新聞社様 株式会社 大林組様 朝日新聞社様 株式会社 ホールオーケストラプライズ様 株式会社 ミロク情報サービス様 読売新聞社様 三菱商事株式会社様 凸版印刷株式会社様	公益財団法人 東芝国際交流財団様 日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社様 日本ロレックス株式会社様 サロンド・ソネット様 TABIZURU FOUNDATION様 株式会社 みずび銀行様 一般財団法人 東京国立博物館協会の様 株式会社 三冷社様 株式会社 東京美術様 日本運通株式会社 美術品事業部様 株式会社 安井建築設計事務所様 株式会社 ナガホリ様 松本建設株式会社様 株式会社 古美術本様 謙慎書道会様 近代書道研究所様 日本畜産興業株式会社様 株式会社 東京書芸館様	インフォコム株式会社様 学校法人 大勝院学園様 有限会社 システム設計様 株式会社 インターネットイニアティブ様 株式会社 小西美術工芸社様 有限会社 キヤラリ竹柳堂様 株式会社 育伸社様 株式会社 モリサワ様 アミ開発有限会社 名古屋支店様 光村図書出版株式会社様 株式会社 資生堂様 株式会社 グラスバウハー・ジャパン様 株式会社 デュナミス様 キョーマン株式会社様 公益社団法人 創玄書道会様 朝陽書道会様 一般社団法人 書芸文化院様 株式会社 精養軒様 株式会社 都市環境企画画 全日本空輸株式会社様 株式会社 清光社様 有限会社 アトリエ・エビス様 一般社団法人 学士会様 公益財団法人 書道芸術院様 アズビル株式会社様 セコム株式会社様 株式会社 ニッセイコム様 株式会社 植秀園様 金剛株式会社様 株式会社 鶴屋吉信様 株式会社 ロイスター様 株式会社 GIC ジャパン様
プレミアム会員 岩間良孝様	維持会員 伊藤信彦様 藪内匡人様 服部悦子様 岩沢重美様 高田朝子様 齋藤孝子様 齋藤邦治様 和田喜美子様 藤原紀男様 中川俊光様 関谷徳衛様 高橋守様 小澤桂一様 上久保のり子様	個人 榑田良豊様 長谷川英樹様 池田孝一様 木村剛様 辻泰二様 谷川紀彦様 佐久間基晴様 田中将介様 高瀬正樹様 寺浦信之様 高木美華子様 古屋光夫様 根田穂美子様 松本澄子様 是常博様 上野孝一様 北山喜立様 山田泰子様 中川俊光様 関谷徳衛様 白井生三様 津久井秀郎様 川澄祐勝様

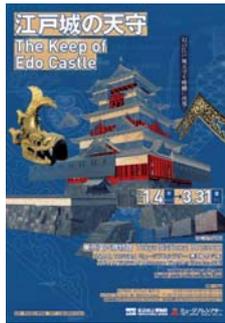
TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

○VR作品『江戸城の天守』～3月31日(金)

徳川家光によってつくられた史上最大にして江戸城最後の天守。その巨大な木造建築には当時最高峰の技術が注がれたそうです。明暦の大火で焼失した天守は、いったいどんな姿をし、どのようにつくられたのでしょうか? 図面や絵図、現在も残る文化財等を手がかりに再現を試みたVRを見ながら、来場者の皆様と歴史考証をお楽しみいただけます。

料金:一般・大学生・高校生:500円、小学生・中学生:300円、未就学児・障がい者及び同伴者1名:無料(1作品/1回あたり)

*総合文化展とセット購入で一般:1,000円/大学生800円
*所要時間は約40分です。鑑賞には当日の予約が必要です。
*演目・スケジュールは都合により変更になる場合があります。
*詳細はウェブサイトをご覧ください。 URL <http://www.toppan-vr.jp/mt/>



特別展「茶の湯」チケットプレゼント

本誌4ページでご紹介した特別展「茶の湯」(4月11日(火)～6月4日(日))の無料観覧券(10組20名様)をプレゼント。締切は3月27日(月)必着。

*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館 広報室「ニュース2・3月号」プレゼント係



初代館長町田久成像の公開について

平成館前庭にて、当館初代館長である町田久成像が昨年11月14日より公開されました。この像は町田久成の子孫にあたる町田忠夫氏よりご寄贈いただき、像は彫刻家で文化勲章受章者の中村晋也氏の制作、台座の銘は安倍晋三内閣総理大臣の揮毫です。平成館にお越しの際には、ぜひご鑑賞ください。



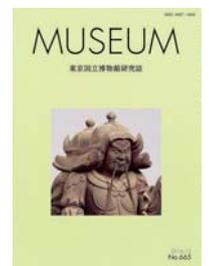
「日本美術の粋 東京・九州国立博物館精品展」を台湾で開催

台湾嘉義県の國立故宮博物院南部院區で、当館と九州国立博物館の名品による展覧会が開催されています(会期:2016年12月10日～2017年3月5日)。狩野永徳筆「松陰図」、尾形光琳作「八橋蒔絵硯箱」のほか、国宝18件、重要文化財44件を含む151件は、まさに日本美術の粋。2014年夏、「翠玉白菜」をはじめとした國立故宮博物院の逸品が日本で初めて展示された展覧会「台北 國立故宮博物院-神品至宝-」に対する感謝の意味を込めた開催ですが、日本の方々も必見の内容です。



『MUSEUM』665号(2016年12月15日発行)の掲載論文

- ①「京都・幽玄齋蔵「瀟湘八景図」の図様と祖本」
呉 永三(京都女子大学非常勤講師)
 - ②「『資料紹介』東大寺・木造双身毘沙門天立像」
岩田茂樹(奈良国立博物館上席研究員)
 - ③「『研究ノート』三条西公条賛「詠歌之大概歌仙図」(陽明文庫所蔵)について」
小野真由美(当館貸与特別観覧室主任研究員)
- お問合せ:当館ミュージアムショップまたは
中央公論事業出版(TEL:03-5244-5723)
定価:1,543円(税込)



東京国立博物館利用案内

開館時間:

9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)

- 総合文化展は金・土曜日は20:00まで開館
- いずれの場合も黒田記念館は17:00まで

休館日:

月曜日(祝日・休日にあたる場合は開館、翌平日休館)

- 3月27日(月)は開館

*特別展等の開催に伴い、開館時間及び休館日は変更になることがあります。

総合文化展観覧料金:

一般=620(520)円 大学生=410(310)円

- ()内は20名以上の団体料金
- 障がい者とその介護者1名は無料。満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方は無料

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジンで!
東京国立博物館ウェブサイト
<http://www.tnm.jp/>

東京国立博物館ニュースの定期購読

年間(6冊分)を1,000円の送料・事務費でご自宅にお届けします。パスポート・ベーシックと同時申し込みで100円割引(会員期間と同一期間の購読に限る)。

*次号よりご送付希望の場合、締切は3月10日(金)です。

*一度納められた料金の払戻はいたしません。 *各種イベントのお申込に際してご提供いただいた個人情報は、当該目的のみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

東京国立博物館友の会&パスポート

2017年4月から新会員制度に移行します。詳細は本誌14ページ上、当館ウェブサイトをご確認ください。

友の会 発行日から1年間有効
年会費 10,300円

*継続入会(パスポート・ベーシックを含む)の場合は9,800円
【特典】東京・京都・奈良・九州国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。特別展観覧券(12枚)の配布、そのほか本誌の定期郵送など様々な特典があります。

パスポート 発行日から1年間有効
一般 4,100円
29歳以下 3,000円
学生 2,500円

【特典】東京・京都・奈良・九州国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも、特別展は1回ずつ計6回まで観覧可能です。

ベーシック 発行日から1年間有効
一般 1,500円
29歳以下 1,100円
学生 900円

【特典】東京国立博物館の総合文化展を何度でも観覧できます。

◎お問合せ
電話 03-3822-1111(代)友の会・パスポート担当
FAX03-3821-9680

▶各種お申込みは当館窓口・ウェブサイトまたは郵便振替で

【ウェブサイト】

申込フォームよりお申し込みください。
クレジットカードによる電子決済をご利用いただけます。

【郵便振替でのお申込】

- 振替用紙に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレスを楷書でご記入ください。
- 振替用紙の半券が領収書になります。有効期間終了まで保管しておいてください。
- 振替手数料はおお客様負担となります。
- ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで2週間程度かかります。

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
口座番号00160-6-406616

●振替用紙には申込区分(新規・継続)を記入し、「継続」の方は、有効期限内の会員証等のコピーを郵送またはFAXでお送りください。

東京国立博物館ニュースの定期購読、パスポート・ベーシック

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート&ニュース
口座番号00140-1-668060

●パスポート・ベーシックを申し込みの場合、振替用紙に申込区分(「パスポート・ベーシック」[一般・29歳以下・学生])を記入し、「29歳以下」[学生]の方は、年齢のわかる身分証明証のコピーを郵送またはFAXでお送りください。

東京国立博物館ニューズ 第741号 平成29年2月1日発行(隔月1回 偶数月発行) 編集/東京国立博物館 広報室 ©東京国立博物館 発行/東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL:03-3822-1111(代表) *ウェブサイトのURL:http://www.nnm.jp/ 独立行政法人国立文化財機構ウェブサイトのURL:http://www.nich.go.jp

Table with 2 columns: Date (1-28 Feb) and Event details. Includes special exhibition 'Spring Day Shrine' and various art events.

Table with 2 columns: Date (1-31 Mar) and Event details. Includes special exhibition 'Nara Period Dry Lacquer' and various art events.

【春日】＝特別展「春日大社 千年の至宝」関連事業。申し込みは締め切りました。

- ★＝「博物館でお花見を」関連事業、詳細は本誌2～3ページ
*1 事前申込制。申し込みは締め切りました *2 事前申込制。詳細は本誌前号13ページ
*3 有料イベント。詳細は本誌14ページ *4 詳細は本誌14ページ
*5 事前申込制。詳細は本誌13ページ

- 講＝月例講演会等、詳細は本誌12ページ(特別展関連事業については、当該ページ)
G＝ギャラリートーク、詳細は本誌12ページ
W＝ワークショップ、詳細は本誌12ページ
☀＝託児サービス実施日(12:30～15:30) 事前予約制 有料
作＝ボランティアによるアートスタジオ 事前申込制 詳細は本誌13ページ
本＝ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館エントランス
浮＝ボランティアによる浮世絵ガイド、集合場所:本館エントランス
陶＝ボランティアによる陶磁ガイド、集合場所:本館エントランス
彫＝ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館エントランス
樹＝ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:本館エントランス
考＝ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所:平成館考古展示室入口
茶＝ボランティアによる応挙館での茶会、集合場所:本館1階エントランス(参加費500円、先着15名、開始30分前に集合場所で整理券配布)※3/26は事前申込制、詳細は本誌13ページ。

- 英＝ボランティアによる英語ガイド(日本美術の流れ)、集合場所:本館エントランス
庭＝ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所:本館エントランス(先着18名、開始30分前に集合場所で整理券配布)※3/16は事前申込制、詳細は本誌13ページ
遠＝ボランティアによるたてもとの散歩ツアー、集合場所:本館エントランス
近＝ボランティアによる近代の美術ガイド、集合場所:本館エントランス
刀＝ボランティアによる刀剣・武士の装いツアー、集合場所:本館エントランス
東＝ボランティアによる東洋館ツアー、集合場所:東洋館エントランス(2月は「仏像の旅」、3月は「東洋館ハイライト」、3/26は「世界遺産の旅」をご案内します)
法＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所:法隆寺宝物館エントランス
藝＝藝大インタンによるギャラリートーク。詳細は本誌12ページ
※屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。

博物館でお花見を
春の庭園開放